

その41 菅原

(平成14年8月1日号—第220号)

J R片町線の藤阪駅と長尾駅の間あたりの、府道交野久御山線沿いに菅原[すがわら]小学校(藤阪中町)があります。創立95年^{*1}に及ぶ歴史ある小学校ですが、なぜ校名が菅原なのでしょう。



69 菅原神社(藤阪天神町)

明治22年(1889)の町村制施行に先立ち、町村合併が進められ、長尾村と藤阪村が合併して、菅原村が誕生しました。新しい村名は、両村とも鎮守社がそれぞれ菅原神社だったため、その名が採用されました。そして、その菅原が小学校名になりました。

昭和15年(1940)に、津田・菅原・氷室の3村が合併して津田町となり、菅原村はなくなりましたが、地域を表す地名として残りました。菅原小学校のほか、菅原公民館^{*2}などにその名をとどめています。

藤阪の菅原神社は、津田氏が天文年間(1532~55)に造営したと言われ、参道を片町線が横切っているため、地下道をくぐらなければなりません。

一方、J R長尾駅の南方にある長尾の菅原神社は、江戸時代の領主であった久貝正世[くがいまさよ]が慶安3年(1650)、祖先ゆかりの長岡天神(長岡京市)の分霊を勧請[かんじょう]した神社です。参道の鳥居では、「正徳四年」(1714)のものが一番古く、「奉為久貝家武運長久」と記されたものもあります。また、社叢[しゃそう]はテンダイウヤク^{*3}生育地としても貴重です。



70 菅原神社(長尾宮前1丁目)のテンダイウヤク

長尾には、菅原神社のほか、菩提寺正俊寺[しょうしゅんじ]や陣屋跡など、久貝氏にまつわる史跡がたくさん残っています。みなさんも、一度藤阪・長尾を散策してみませんか。

^{*1} 明治40年(1907)に長尾・王仁の両尋常小学校が統合された。

^{*2} 平成18年10月から菅原生涯学習市民センター。

^{*3} テンダイウヤクは秦の始皇帝が徐福に命じて探させた「不老長寿の薬樹」という伝説があるが、中国原産で江戸時代に日本に渡来し、薬として重用された。菅原神社の生育地は大阪府内でも貴重な群落である。